

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「おおきく なった」 教材名「おおきく なった」

2 単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。（B(1)ア）

観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。（B(1)ア）	①観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ。この教材では、観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

教師が用意した安全な身近な物を観察し、形・色・位置・動きなどの記録から必要な特徴を選ぶ。独自例「赤い物」からどこが赤いかまで説明を加え、読み手の想像と照合する。想定する難しさは、印象語だけで対象が伝わらない、見た事実に想像を混ぜる。評価では、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしているかを、観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 学校で育てるものなどを観察し、形・色・大きさを絵と言葉で記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3 （本時）	○学校で育てるものなどを観察し、形・色・大きさを絵と言葉で記録する。前の記録と比べて知らせたい変化を選び、短い文にする。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	4	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (2/4)

(1) 本時の目標

観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「前に見た時と比べ、何がどう変わりましたか」 【めあて】観察して気付いた大きさや形の変化を、伝える材料として選ぶ。 〈予想される児童の反応〉 ・かわいいだけでは形が分からない。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「前に見た時と比べ、何がどう変わりましたか」 学校で育てるものなどを観察し、形・色・大きさを絵と言葉で記録する。前の記録と比べて知らせたい変化を選び、短い文にする。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・かわいいだけでは形が分からない。 ・大きさより並び方を説明したい。 ・触っていないのに柔らかいと決めていた。	教師が用意した安全な身近な物を観察し、形・色・位置・動きなどの記録から必要な特徴を選ぶ。独自例「赤い物」からどこが赤いかまで説明を加え、読み手の想像と照合する。 想定する難しさ：印象語だけで対象が伝わらない、見た事実と想像を混ぜる。 評価では、観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしているかを、観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 観察したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりしている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・触っていないのに柔らかいと決めていた。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「前に見た時と比べ、何がどう変わりましたか」。中央は、観察の事実、選んだ特徴、言葉だけで描いた文章、読み手からの質問と修正に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

